

Formula NIPPON NEWS 2009.04.04
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第1戦・予選 [富士スピードウェイ]

平手晃平 (ahead IMPUL) が初ポールポジションを獲得

2位・伊沢と共に2年生コンビが決勝レースを最前列からスタート

4月4日(土)、全日本選手権フォーミュラ・ニッポン開幕戦・予選が富士スピードウェイで午後1時45分より1時間に渡り行われ、今季参戦2年目となる若手のNo.20 平手晃平 (ahead IMPUL) が、フォーミュラ・ニッポンで自身初となるポールポジションを獲得した。予選2位には、やはり2年目のNo.41 伊沢拓也 (DOCOMO DANDELION)。Q2でトップタイムをマークしていたディフェンディング・チャンピオンのNo.1 松田次生 (LAWSON IMPUL) は、まさかのブレーキトラブルで、最後は8番手に留まることになった。

予選方式は昨年と同様のノックアウト方式。予選中には心配された雨は降らず、曇りのコンディションの中で行なわれた。予選第1セッション(Q1)は20分間で行なわれた。コースオープンされると、まずピットを後にしたのは、伊沢、No.7 国本京佑 (Team LeMans)、No.48 立川祐路 (CERUMO/INGING)。伊沢はマシンの確認をただけで一旦ピットイン。国本、立川はそのままアタックに入る。続いてコースに入ったのはNo.37 大嶋和也 (PETRONAS TOM'S)。大嶋もそのままアタックへと入った。その他のマシンがアタックに入ったのは、残り時間が約6分半となった時点から。ここでチェッカー間際にトップタイムをマークしたのは、伊沢。平手、No.2 ブノワ・トレルイエ、松田のLAWSON IMPUL 勢がそれに続く。一方ここで敗退したのは、大嶋と立川。残る11台が第2セッション(Q2)へと駒を進めることになった。

10分間のインターバルを経て、Q2が始まったのは、午後2時15分から。ここでも国本と伊沢が真っ先にコースイン。伊沢はやはりタイヤの慣らしだけをして、一旦ピットに入った。この時点では、気温/路面温度が徐々に下がりつつあったため、残り約7分から残るマシンが続々コースイン。タイムアタックへと向かった。ここで堂々のトップタイムをマークしたのは松田。平手、No.31 ロイック・デュバル (NAKAJIMA RACING) がそれに続く。一方、僅差で第3セッション(Q3)進出を逃したのは、国本、No.40 リチャード・ライアン (DOCOMO DANDELION)、No.10 塚越広大 (HFDP RACING) だった。

再び10分間のインターバルを経て、Q3が始まったのは、午後2時35分。セッション開始から3分で、ほとんどのマシンが続々コースに入った。この頃、ピットでブレーキパッドの取り替え作業を行っていたのは松田。Q2のアタック後に、ブレーキパッドが傷んで利かなくなったため、メカニックが総出で交換。ようやくコースインしたのは、残り時間が4分半。ぎりぎりアタックできるかどうかという状況だ。その間に、他のドライバーは次々にアタック。ここでチェッカー目前にトップに立ったのは、トレルイエ。だがその直後、1分24秒653というトップタイムを叩き出したのは平手だった。コントロールラインでチェッカーが提示された時点で最後のアタックをしていた伊沢が、2番手タイムをマーク。平手とトレルイエの間に割って入り、昨年の開幕戦と同様、フロントロウにつけている。以下、4番手にNo.36 アンドレ・ロッテラー (PETRONAS TOM'S)、5番手にNo.32 小暮卓史 (NAKAJIMA RACING)、6番手にデュバル、7番手にNo.8 石浦宏明 (Team LeMans) と続き、アタックし切れなかった松田が8番手という予想外の結果に終わっている。

これにより、決勝レースは若手2人が最前列からスタート。それを実力派が追い上げるといふ、見ごたえある展開になりそうだ。今季から導入されたオーバーテイクシステムを駆使し、どんなバトルが見られるのか。天気も良くなりそうな決勝レース、非常に注目だ。

Formula NIPPON NEWS 2009.04.04
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第1戦・予選 [富士スピードウェイ]

予選トップ3 ドライバーのコメント

ポールポジション (予選1位)

No. 20 平手晃平 (ahead TEAM IMPUL)

開幕前にテストがあったんですけど、なかなかコンディションに恵まれず、今日久々にドライで走ることができました。今日は前回の富士で良かったセットアップで走り始めて、少しずつ煮詰めていこうと思っていたんですけど、時間がなかったので思い切ったセットアップをしたら、結構いい感触だったので、予選もそのまま行きました。

予選も時間が短いので、あまり思い切ったセットアップ変更はできないんですけど、朝のフリー走行で良かった部分をQ1、Q2と少しずつ変えて行って、Q3はQ2の状態のまま走りました。クルマの状態はベストではないですけど、それでもある程度いい感触で走れたのが、この結果につながったと思います。ポールポジションを獲ったのは本当に久々なので、明日は大事にレースをして、ポール・トゥ・ウィンを決めたいですね。

予選2位

No. 41 伊沢拓也 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)

テストから調子は良かったんですが、速いチームについていけなかった。でも、フリー走行後にチームがセットアップを変更したら、予選は非常にクルマが良かったです。Q1のタイムは僕もビックリ。ただ、僅差でポールを逃して、悔しい気持ちと、チームに申し訳ない気持ちがあります。

去年の開幕戦も予選2位で1コーナーまでにトップに立てたんですが、そこで抜かれた。今年はスタートでトップに立ち、逃げ切りたいです。

予選3位

No. 2 ブノワ・トレルイエ (LAWSON TEAM IMPUL)

予選Q1は、すごくクルマが良かった。でも、トラクションが足りなくてセットアップを変えたら上手くいかなくて。Q3は元に戻した。まだ完璧じゃないね。

レースでは、まず完走しないと。あとはスタートで誰かを押し出さないように(笑)。もちろん、ベストを尽くす。ただ、実際に誰もこのクルマでロングランしていないし、タフなレースになると思うし、色々なことが起こると思うので、まずはポイントを確実に取りたい。

Formula NIPPON NEWS 2009.04.04
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第1戦・予選 [富士スピードウェイ]

第1戦富士・予選結果

富士スピードウェイ 4,563m

■天候：曇り コース：ドライ 気温/路面温度：Q1 15°C/25°C Q2 13°C/21°C Q3 12°C/19°C

■開始/終了時間 Q1：13:45~14:05/Q2：14:15~14:25/Q3：14:35~14:45

Po	No	Name	Team	Q3	Q2	Q1
1	20	平手 晃平	ahead IMPUL	1'24.653	1'24.728	1'25.022
2	41	伊沢 拓也	DOCOMO DANDELION	1'24.692	1'25.363	1'24.742
3	2	ブノワ・トレルイエ	LAWSON IMPUL	1'24.756	1'25.422	1'25.024
4	36	アンドレ・ロツテラー	PETRONAS TOM'S	1'25.045	1'25.197	1'25.464
5	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	1'25.187	1'25.261	1'25.609
6	31	ロイック・デュバル	NAKAJIMA RACING	1'25.359	1'24.838	1'25.209
7	8	石浦 宏明	Team LeMans	1'25.572	1'25.098	1'25.213
8	1	松田 次生	LAWSON IMPUL	1'26.641	1'24.697	1'25.180
9	7	国本 京佑	Team LeMans		1'25.507	1'25.519
10	40	リチャード・ライアン	DOCOMO DANDELION		1'25.612	1'25.779
11	10	塚越 広大	HFDP RACING		1'25.718	1'25.881
12	37	大嶋 和也	PETRONAS TOM'S			1'26.116
13	48	立川 祐路	CERUMO/INGING			1'26.270

【この件に関するお問い合わせ】
株式会社日本レースプロモーション
広報担当 石原
media@f-nippon.co.jp